

「MRI検査時の貼付剤について」

中央放射線部 日本磁気共鳴（MR）専門技術者 黒澤 慎哉

MRI装置は放射線を使用せず『電波』と『磁石』の力を利用して画像情報を得ます。このとき『電波』が貼付剤に影響を及ぼし非常に問題となります。「なぜ？」と思われるでしょうが、電子レンジを思い出してください。電子レンジで「チン」すると、水分を含むものは加熱され、金属を含むものはパチパチ火花を散らして熱くなります。これと同じことがMRI装置内でも起こり、貼付剤の内容物によっては、熱くなったり火花が起こる恐れがあります。日本国内でもMRI検査中の貼付剤による火傷事例が多数報告されています。

火傷の恐れがある貼付剤は、【①内容物に金属が使用されているもの】【②水分含有量が多いもの】があります。①はニコチネル・ニトロダーム・ノルスパンテープ・ニュープロパッチ等です。②はアドフォードパップやセルタッチパップ等です。ただし、テープタイプのセルタッチテープは貼付剤内の水分含有量が非常に少ないため、MRI検査での火傷の危険はないと報告されています。

また、フェントステープとフェンタニルテープは、貼付部位の温度が上昇するとフェンタニルの吸収量が増加し過剰投与となり死に至る恐れもあると言われており、MRI検査前に剥がさなくてはなりません。

当院では原則として貼付剤を剥がしてMRI検査をおこないますが、剥がすと治療に影響を及ぼしかねない貼付剤（麻薬・劇薬や向精神薬等）などもありますので、検査を受ける皆様からの情報がとても大切です。

今回は「MRI検査時の貼付剤」についてお話しましたが、ご理解いただけましたか？

私たち中央放射線部は、安全で質の高いMRI検査の提供に努めてまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。